



3年現代文

「ワスレナグサ」⑤

星野道夫

教科書

p 190～197

前回内容の確認

ワスレナグサの魅力とは何か？



ごく小さく誰にも見られなくても、
限られた持ち時間の中で一生懸命開
花しようとするところ。

第二段落 ↓

短い夏に一生懸命咲く
花々

第三段落 ↓

誰に見られなくとも懸命
に咲くワスレナグサ

テーマ

(僕とワスレナグサとのつながり)

限りある生命を生きること
(誰にも見られなくても)

第四段落の読解①

〈北極海沿岸のベースキャンプで〉

問 テレビ局のスタッフを見て「心配になったこと
(p194 11行目)」はなにか？

手順1

テレビ局のスタッフを見て気になったことに線
を引く。

誰もがそのことで頭がいっぱいで、自然を本
当に見てはいないような気がした。

p194 9行

手順2

「そのことと」は何か？

番組を撮って帰らなければならぬと焦る気持
ち

答 番組を撮って帰らねばと焦り、自然を本当に見て
はいないような気がした。

問 自然を本当に見るとは？

そのことを具体的に説明している部分に線を引く。

一日のうち十五分でも三十分でもいいから、仕
事のことをすべて忘れて、今ここに自分がいて、
花が咲いていたり、風が吹いていたり、はるか
な北極海のほとりでキャンプしていることを
しっかり見ておくこと。

p194 15行目

答 今、目の前にある自然とその自然の中にいる自分
自身をしっかりと見ること。

第四段落の読解②

〈限られた時間を生きるといふこと〉

第二段落

「自分の短い一生」

第二〜三段落

「短い夏」

第四段落

「私たちが生きることができるのは、過去でも未来でもなく、**ただ今しかないのだ**」

p195 5行目

作者のメッセージ

ベースキャンプ周辺の風景

(今を生きる生き物の姿)

シギヤチドリ
トウゾクカモメ

(懸命に生きる姿)

「なぜかそこだけに花が咲き乱れている
ホツキョクギツネの巣」

その理由

幾世代にもわたるホツキョクギツネの
排泄物が、大地に栄養を与えてきたか
ら

問い

第四段落の読解③

〈今を生きるということ〉

問 ホツキヨクギツネの巣の描写から作者が伝えたいものは何か？

「幾世代にもわたる」 p195 15行目

キツネの「短い一生」の積み重ね

大地に栄養を与え、
花を咲かせ、
子ギツネを生み、育てる。

意味を持つ時間

結果が、最初の思わくどおりにならなくても、
そこで過ごした時間は確実に存在する

p196 4行目

最後に意味を持つのは、結果ではなく、過ぎ
てしまった、かけがえのないその時間である。

p196 5行目

答 最後に意味を持つのは結果よりも、**今という時間**を**本当に生きる**ことである。

第四段落の読解④

〈二つの時間〉

慌ただしい、人間の日々の営みと並行して、もう一つの時間が流れていることを、いつも心のどこかで感じていたい。

P196 10行目

時間①

人間の日々の営みの時間。

=

結果を出そうとする時間

一般的に大切にされる時間

もう一つの時間

何も生み出すことのない、ただ流れてゆく時間

(一般的には無駄とされるが、) 作者が大切にしたい時間

今という時間こそが生きている時間だから

第五段落の読解

〈自分の子供に伝えたいこと〉

何も生み出すことのない、ただ流れてゆく時間の大切さ

限られた命を生きること

今という時間を本当に生きること

自然とのつながりを感じながら生きること